一番は、白閃光が得意の右のど輪で攻めたが、千代鈴の圧力に押されて逆に押し出しに敗れた。千代鈴は2敗を守り、白閃光は優勝争いから脱落した。

白閃光●（押し出し）○千代鈴

結びの一番は、若ノ嶋と2敗の鬼ヶ嶽の取組みが組まれた。結び前の一番では、3敗の美空富士が大関佐賀ノ海敗れて優勝争いから脱落。若ノ嶋は優勝の望みを残すには鬼ヶ嶽に勝つしかない。「また、いやな相手と組まれたなぁ！」と苦手の相手と組まれて頭を抱える錦風親方。かつて初優勝のチャンスを潰されるなど、鬼ヶ嶽は顔を見るのも嫌な相手先場所も、優勝したものの唯一黒星を喫したのが鬼ヶ嶽。

しかしながら、ここは鬼に勝って千秋楽に優勝の望みをつなげたい。「青木がまた降りてきた感じだよ。」と青木前理事長がまた降臨したようだと笑いを堪えながら口にする磯ノ海親方。「こっちは天下の横綱だ！」とそんな声を振り払うかのような立合いを見せた若ノ嶋だったが、鬼ヶ嶽の得意ののど輪で先場所と同じように敗れた。

「先場所に続いてまただよ～！」と鹿賀乃戸親方。若ノ嶋は美空富士と同様、八日目からまさかの3連敗で優勝の芽がこの時点で消滅した。また、同時に十日目に勝って3敗の優勝圏内にいた平幕の烏帽子岳、四季嶋、鉄甲、伊達の富士、喜乃郷の優勝もなくなった。鬼ヶ嶽は若ノ嶋に勝って2敗を守り、千秋楽に千代鈴と優勝をかけての決戦に臨むことになった。

若ノ嶋●（押し倒し）○鬼ヶ嶽

迎えた千秋楽。三役揃い踏みの2番前に今場所の優勝を決める注目の取組みを迎えた。九日目までは優勝決定戦の可能性も囁かれたが、今場所の優勝は千代鈴と鬼ヶ嶽の直接対決で争われることになった。

千代鈴が勝てば初優勝。また、春日根部屋としては第58回に大関西ノ海が優勝して以来、なんと40年振りの優勝となる。また、この場所は幕下筆頭だった初代千代鈴が辰輝灘、富士登の両横綱を破って殊勲賞を飾っている。

一方、鬼ヶ嶽が勝てば、第127回以来、10年振り4回目の優勝となる。誰もが千代鈴の勝利を願い、順当に行けば千代だろうが意地悪が大好きな青木前理事長の存在がなんとも不気味。観衆が固唾を飲んで見守る中、行司軍配が返る。

鬼ののど輪をものともせず、左を差して十分な体制となる千代。そこから正面土俵に寄り進むも簡単には土俵を割らずに粘りをみせる鬼ヶ嶽。しかし、がっちり腰を下ろし余裕すら感じさせる万全の体制の千代が寄り切って、優勝を決める大一番を制した。

「千代鈴が優勝だ！」と真っ先に友砂親方が声をあげると、親方衆が春日根親方に次々に祝福の言葉をかけてグータッチで優勝を祝った。春日根親方も満面の笑みでこれに応え、「いや～！嬉しいですねェ！」と素直に喜びを表わしていた。

千代鈴初優勝の余韻が覚めやらぬ中、今年最後の一番は若ノ嶋と美空富士の横綱同士の結びで今年を締めくくることになる。七日目までともに6勝1敗として、今場所は誰しもがこの2人の横綱の優勝争いになると予想していた。ところが2人そろって八日目からまさかの3連敗で、十日目にして優勝争いから脱落するという予想外の結果になった。

2人の対戦はともに休場等があり、第150回千秋楽以来2年振りの対戦。これまで大相撲を演じてきた2人だけに「優勝はなかったけど、今場所を締めくくる良い相撲が見たいものだ！」と朝日松理事長が期待の言葉を口にする。

しかし、前回の対戦から大きく痩せた美空富士と組み合うと、やけに若ノ嶋との体格差が目立ち美空は別人のように見えた。今年最後の一番は、立合いに若ノ嶋が左を差すと美空に何もさせずにそのまま若ノ嶋が正面土俵に寄り切った。若ノ嶋は7勝、美空富士は6勝で今場所を終えた。

若ノ嶋○（寄り切り）●美空富

打ち出し後、表彰式が執り行われ、朝日松理事長より賜杯が優勝の関脇千代鈴に贈られた。また、千代鈴の優勝力士インタビューも行われ、「今場所は初日から5連勝としたものの、佐賀関、美空関に連敗して、今場所も上位に通じないのかと思われたが、これまで勝ったことのなかった春ノ翔関、若ノ嶋関に勝って勢いに乗れた。大関昇進は理事の皆さんにお任せするとして、もし昇進できたなら地位に恥じないような相撲を取っていきたい」と今場所の振り返りと来場所以降の抱負を語った。

来場所は、千代鈴が大関に昇進し3横綱2大関の番付となる。今場所の横綱大関陣は2日続けて4人全員が黒星を喫するという紙相撲史上かつてない不名誉な記録を残すことになった。来場所は「さすが横綱大関」と言われるような強さをみせ、この5人で優勝争いを演じてもらいたいものだ。

次回の第155回本場所初日は令和4年1月開催の予定。世界的に感染が広がり出しているオミクロン株が心配だが、来年は緊急事態宣言が発出されることなく無事に3場所開催できることを祈りたいものである。

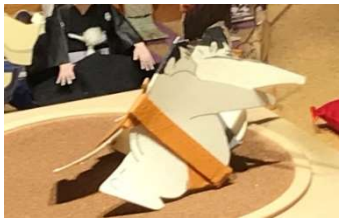
（錦風）

友砂期待の暫、三つ巴を制覇

十両は9勝2敗で雪若丸、暫、勝ノ川が並び、決定戦を制した暫が初優勝を飾った。

十日目に暫が西安を押し倒しで下し1敗を守って迎えた千秋楽。勝てばすんなり優勝が決まる大事な一番は2敗の雪若丸戦。先場所の対戦はなく初顔となるが、両者ともに左を差して有利な形に持っていきたいところ。互角の立ち合いから先に左をねじ込んだ暫が向正面に寄り進むが、雪若丸もギリギリ俵で残したところで暫の廻しが付き、雪若丸に軍配が上がった。

暫　○（押し倒し）●西　安



暫　●（引き落し）○雪若丸

これにより、先に2敗を守っていた勝ノ川との3人による優勝決定戦へ突入。くじ引きによってまずは暫と勝ノ川の組み合わせ。勝ノ川は勝てば次は兄弟子でもある雪若丸との対戦になるとあって、何とか勝ちたかったのだが暫にあっさりと左を差されて万事休す。そして暫と雪若丸の決戦となり、本割での借りを返す形で暫が十分な体勢から寄り切って優勝となった。

暫　○（寄り切り）●勝ノ川

雪若丸●（寄り切り）○　暫